

1. 学校の教育目標

「わが学園は、教育を通して『努力心』『誠実心』『独立心』を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする」本学園の建学の精神をもとに
①社会を見つめ、自己の進路実現がかなうよう、指導支援する。
②生徒個々の自学力が向上するよう指導支援する。

2. 教育目標具現化の施策

①本校の伝統を継承しつつ、新しい時代の教育要望に応える学校を構築する。
②教職員全員が自己の教育力を伸ばすと共に、学校の発展を進める。
③地域・中学校・大学・専門学校等との連携を強め、本校の存在意義や教育方針を広く浸透させる。
④教育相談やアップルールの活動を積極的に取り組み、理解を深める。
⑤学校安全を徹底し、安心して学校生活ができるよう環境を整える。

2020年度の取組目標とその評価

取りまとめ	取組目標	取組報告	評価
教務	生徒一人ひとりを向上させる指導方法の工夫・改善を図る	「楽しい授業」を実施した。	A
		アクティヴラーニングの研究と授業実践をした。	
		校内研修の充実を図った。	
		放課後補習により自学自習・学習習慣の定着を図った。	
		新教育課程の研究を進めた。	
	教育システムの充実	英語・数学・簿記の習熟度別クラス編成を実施した。	
		ユニットベースへのスムーズな移行を準備・実施した。	
	学校行事の充実	諸行事を計画的に実施した。	
	課題	・今年は新型コロナ感染防止のため、行事が中止となった。 ・「楽しい授業」については努力しているがまだまだ不十分である。生徒及び保護者が満足できる授業作りの一層の努力が必要である。	
	今後の改善方策	・「楽しい授業」については、生徒及び保護者が満足できる授業作りについて日々の授業を振り返りながら今後も継続して研鑽を重ねていく。 ・ICT教育を推進するため、研究を継続する。 ・研究授業だけでなく、教員同士が互いに授業を見学し、意見交換できるシステムを構築する。	

進路指導	進路学習の充実	生徒・保護者対象の面談を計画的に実施した。	B
		進路ガイダンスを実施した。	
		進路学習ブックの作成を企画した。	
		キャリアセンター・就労移行支援事業所「Iビリーブ」との連携を深めた。	
	課題	・コロナ禍のため、進路ガイダンスは中止となり、個別指導を実施した。	
	今後の改善方策	・3年間を見通した進路指導を計画し実践する。 ・オンラインを有効に活用する。	

生徒指導	校内指導	あいさつ、言葉使いなどの基本となるマナーの定着を図った。	B
		服装や頭髮、その他の学校規則に対する意識を高め、守らせた。	
		公共心・道徳心を養い、お互いを尊重する心を育成した。	
	校外指導	学校周辺パトロールを実施した。	
		警察や周辺の学校との連携を取り、情報交換した。	
		学校周辺のコンビニを巡回し、利用マナーの定着を図った。	
	課題	・新しい生活様式が提案され、設定する目標の見直しが必要になった。 ・全職員の共通理解が不足する場面があった。	
	今後の改善方策	・教職員全員が統一した見解を持ち指導に当たるよう会議において共通理解を図る。	

教育相談	教育相談	教職員が連携し生徒情報を共有しながら教育相談の充実に努めた。	A
		教員研修を実施した。	
	課題	新型コロナ感染防止のため、対面の保護者面談を控え、オンラインや電話での相談に切り替えた。	
	今後の改善方策	・社内ネットワークを利用して速やかに共通理解を図る体制を整える。 ・ICTを積極的に活用するシステムを構築する。	

保健安全	生徒の健康管理	定期健康診断の実施と、生徒の健康管理を行った。	B
		健康診断結果による勧告書を発行・回収した。	
		時期に応じた保健情報を提供した。	
		熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス等の流行情報を速やかに伝えた。	
		保健室の維持管理を実施した。	
		保健室の適切な利用を指導した。	
		清掃の計画と実施、点検を実施した。	
	傷病事故の管理	傷害事故の把握（教科担当と担任との連携を密にする）をした。	

	課題	・新型コロナ感染防止についての情報提供が優先され、「時期に応じた」保健情報は少なくなった。
	今後の改善方策	・保健室の衛生的管理を年度当初の計画に盛り込む。 ・常に救急セットを持ち運ぶようにする。

防災安全	災害時の対応	避難訓練を実施した。	B
		防災計画を作成（火災・地震・津波・風水害）した。	
		防災備品を点検・管理・購入した。	
		防災教育を推進した。	
	課題	・新型コロナ感染防止のため、避難訓練は教員のみ実施した。	
	今後の改善方策	・次年度の避難訓練は根本からの見直しをかける。 ・防災教育の対象を生徒・教職員とし、災害に対して多様なケースを想定したマニュアル作成や研修を実施する。	

施設管理	学校施設の整備	施設安全点検を実施した。	A
		情報関係施設管理を実施した。	
	課題	・安全点検が遅れたことがあったが、月ごとに担当を決めてから、定期的を実施することができた。	
	今後の改善方策	・定期的な安全点検の実施と、修繕箇所がある場合は速やかに学園本部に報告することを継続する。	

生徒会	生徒会活動・諸行事を通じてリーダーシップの育成を図る	生徒会活動の推進、企画、実施を図った。	B
		執行部の指導、支援を図った。	
		諸行事の指導、支援を図った。	
		ボランティア活動に関する事項を提案、支援した。	
		生徒会ブログの編集・運営を推進した。	
	課題	・行事が減少したが、新規行事（クリーン週間、新聞製作、Tシャツコンクール）を実施した。 ・立ち合い演説会をオンラインで実施したが、事前指導が不足した。	
今後の改善方策	・ICTを活用する場合も、事前の準備と指導を丁寧に行う。		

特別支援 教育	1人ひとりの特性 に配慮した指導を 行う	個別支援計画を作成した。	A
		生徒・保護者面談を定期的に実施した。	
		保護者勉強会を企画・実施した。	
		教員対象研修会を企画・実施した。	
		医療機関等専門機関と連携した。	
		進路について早期から就労移行支援事業所「Iビリーブ」と連携し、指導・相談を実施した。	
	課題	・コロナ禍のため、教員の外部出張が減少し、研修の機会が少なくなった。	
	今後の改善方策	・個別支援計画、個人票の書式を毎年見直す。 ・校内研修の充実を図る。	

入試委員会	入試広報活動の充実	学校案内、募集要項を作成した	A
		広報制作物を作成した。	
		H Pを管理した。	
		学校説明会・体験入学を運営した。	
		外部相談会に参加した。	
		中学校訪問を実施した	
	課題	・中学校訪問を実施したが、日程的に計画通りには難しかった。	
	今後の改善方策	・コロナ禍で中学校訪問の制約があるため、発送資料の充実を図る。 ・新型コロナ感染防止対策を十分に行い、学校説明会・体験入学を運営する。 ・ホームページを有効に活用する。	

評価実施者 岩谷学園高等専修学校教職員

* 各評価項目における評価点(「適切:4」、「ほぼ適切:3」、「やや不適切:2」、「不適切:1」)その平均値(少数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示)を以下の基準により表示した。

評価	基準
A	4. 0～3. 6
B	3. 5～3. 1
C	3. 0～2. 6
D	2. 5以下